

SANYADUKA

三夜塚遺跡 V

—地方特定道路整備工事（村道北6号線）に伴う記録保存—

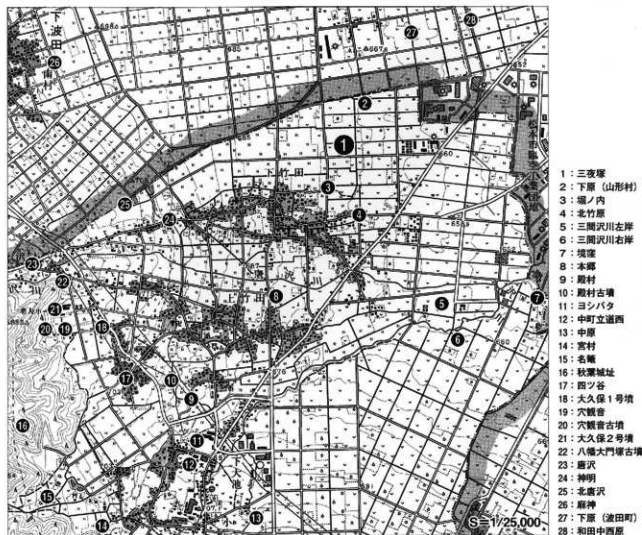


2010.3

長野県山形村教育委員会

例言

- 1 本書は、平成20年8月25日～9月17日の期間実施された、長野県東筑摩郡山形村6402番地4他に存在する三夜塚遺跡の緊急発掘調査報告書である。
- 2 本調査は、山形村による地方特定道路整備工事（村道北6号線）に伴う緊急発掘調査であり、山形村教育委員会が発掘調査を実施、本書の作成を行ったものである。
- 3 本書の編集・執筆は、和田哉が行った。
- 4 本調査で用いた方位記号は、すべて真北である。また用いた土色は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』である。
- 5 遺物の写真撮影を宮嶋洋一氏に依頼した。また石器の実測・トレースを株式会社シン技術コンサルに、自然科学分析をバリノ・サーヴェイ株式会社に委託して行った。
- 6 本調査で得られた出土遺物及び調査の記録類（図面・写真等）は、山形村教育委員会が保管し、出土遺物は山形村ふるさと伝承館（〒390-1301 長野県東筑摩郡山形村3866 ℡0263-98-3938）に、調査の記録類は山形村農業者トレーニングセンター（〒390-1301 長野県東筑摩郡山形村2040-1 ℡0263-98-3155）に収蔵されている。



第1図 三夜塚遺跡の位置と周辺の遺跡

I 調査の経緯

1. 調査に至る経過

三夜塚遺跡は山形村の北東端、下竹田区竹田原地籍に所在する。この地籍では土器や石器が採取されており、地域住民を初めとして多くの人を知る遺跡である。発掘調査された面積は少ないものの、広大な遺跡範囲、多数採取された遺物から、松本平最大の縄文中期遺跡とも言われた。

一帯は広大な畑作地帯であるが、南東側には松本市臨空工業団地が展開しており、朝夕は特に通勤車両の通過が激しい。畑の中を通る細い道路をせわしく通過していく車両の事故が頻発しており、村では順次道路改良を行って来ていた。平成19年には村道北6号線の拡幅が計画されたが、その年に当遺跡で行っていた灌漑用配水管更新工事に伴う発掘調査状況から、拡幅区間の南側には遺構・遺物の存在が確実視された。そこで工事を担当する村農林建設課と村教育委員会で協議を行い、平成20年度に記録作成のための発掘調査を実施するとしたものである。現場での発掘調査は平成20年8月25日から1ヶ月弱の期間行われ、終了後出土遺物の整理作業に着手した。なお他遺跡の整理作業を並行して行っており、同年度内での報告書刊行が厳しい状況であったため、平成21年度に本報告書の刊行となった。

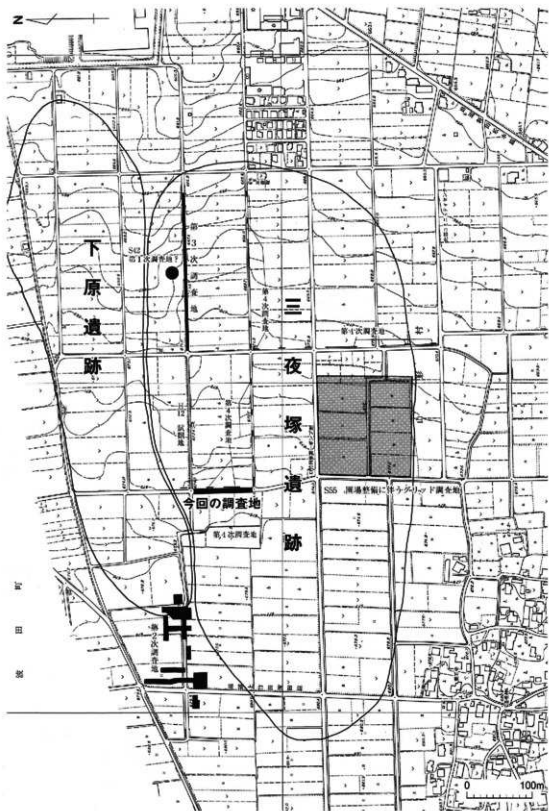
2. 調査体制

調査責任者	山形村教育長 本庄利昭
調査担当者	山形村教育委員会社会教育係 主査 和田和哉
協力者	大金肇夫、中川長一、村井敏子、山中久代、渡辺喜美治（以上社団法人松本地域シルバー人材センターより派遣）、青木智恵子、直井由加理
事務局	山形村教育委員会社会教育係 教育次長補佐兼社会教育係長 小口賢一

II 遺跡の位置と環境

三夜塚遺跡（第1図1）は、西山山麓から流れ出る唐沢川の扇状地扇端に位置し、標高は670m前後、1000分の25程度の比較的緩やかに東へ傾斜した場所にある。河川から離れた水利に乏しい場所であり、戦前までは樹木の茂る平地林になっていたと言われ、開墾後も畑作地帯であった。集落が立地するには不向きな場所と見られやすいが、過去に水が流れていたと思われるわずかな窪地が西側の山へと延びているのが確認でき、唐沢川の河川跡と考えられる。縄文時代にはここに水が流れ、集落が展開したと思われる。なお松本市三間沢川左岸遺跡（臨空工業団地内）の発掘調査で延々と検出された溝址（水路）の水源は、堆積した土砂の分析から唐沢川に求められるとされることを考慮すると、平安時代までは上記の場所に水が流れていたと推測される。市村境（駒ヤンマー農機長野営業所敷地）で遺跡の確認調査を行った際に、時期不詳の溝址を検出したこともこれにつながるかもしれない。

この遺跡の北側には下原遺跡（2）が隣接し、当遺跡と同じ縄文中期の土器を多出する。上記の河川の左岸に下原遺跡、右岸に三夜塚遺跡が立地することになり、出土する土器の時期が重なるので同時に両岸で活動があったと推測される。加えて南側には堀ノ内遺跡（3）と北竹原遺跡（4）があり、こちらも中期の土器が拾われている。またこの周辺には中期の遺跡が数多く知られ、発掘調査された殿村遺跡（9）や波田町麻神遺跡（26）は有名である。中期より古い時期は、町村境の唐沢遺跡（23）で前期中葉～後葉の堅穴式住居址4軒、名巻遺跡（15）で早期押型文土器片や同時期の土坑、前期末～中期初頭の集落址、中町立道西遺跡（12）で前期後葉の堅穴式住居址1基、などの調査例があるものの量は少ない。また当遺跡では局部磨製



第2図 調査位置図

石斧が採取されており、縄文時代開始期前後にまでさかのぼり得るものの、これが唯一の資料である。後期以降は前期以前に増して事例に乏しく、名笹遺跡(15)で後晩期の集石遺構、波田町麻神遺跡(26)で後期前半期の事例を数えるにすぎない。

水源に乏しい当地周辺では、水稻可耕地が限られるため、弥生時代以降の遺跡は少ない。弥生中期前半の集落址が市村境の境窪遺跡(7)で見つかっているが、それ以外はヨシバタ遺跡(11)や唐沢遺跡(23)で土器が数点見つかっているに留まる。上竹田区四ツ谷地籍には大久保古墳群と呼ばれる横穴式石室を持つ小古墳が5基(10・18・20・21・22)あったことが知られているが、古墳時代の遺跡は発見されていない。続く奈良時代の遺跡もないが、平安時代になると散見でき、殿村遺跡(9)で13軒、中町立道西遺跡(12)で2軒、境窪遺跡(7)で3軒の竪穴式住居址が見つかっている。

中世については名笹遺跡(15)で鎌倉期の集落、室町期以降の墓域、中町立道西遺跡(12)で中世後半期の遺構・遺物が見つかっている。秋葉城址(16)等の城郭遺構も知られるところであるが、文献史料は皆無に等しく、詳細にうかがうことはできない。

Ⅲ 調査の結果

1. 調査の概要

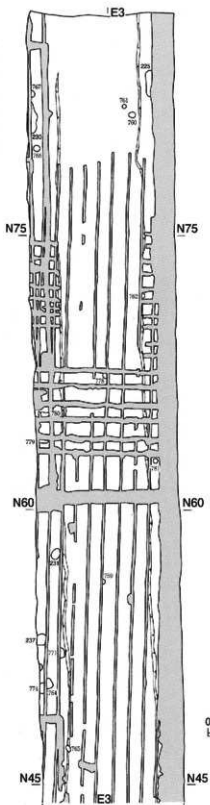
今回の道路改良は、車両のすれ違いを安全にできる様にするための拡幅を目的としたが、現道も路盤から作り直す計画であった。現道を開道した際には発掘調査を実施していなかったため、全幅を発掘調査対象とした。当遺跡では今までに4回の発掘調査(第2図)を実施しており、今回が5回目(第V次調査)となる。調査地一帯の遺構面までの層序は単純で、30~50cm程度の耕作土を剥ぐとすぐ地山のローム層が現れ、遺構検出面はこのローム層上面となるのが通常である。現道の路盤は予測以上にしっかりしたもので、地山を削り込んで深くまで川原石を入れてあったため、遺構の上部は削平されており、拡幅される範囲と現道の範囲では遺構検出面に20cm程度の段差があった。調査区の北側には、道路ができる前に長芋が栽培された掘削溝が格子目状に存在し、灌漑用水の配水管も入れられていた。削平や攪乱の状況は予測以上ではあったが、681.5mの調査区から土坑38基、ピット34基、溝址1条を検出した。なお遺物はコンテナ1箱分と少ない。

現場での調査では、耕作土と現道の路盤を構成する土砂の除去には重機を用い、遺構検出・掘り下げ作業は人力にて行った。調査区は国土座標(世界測地系)に沿って任意のグリッドを設定し、遺構及び遺物出土状況等の測量記録を行った。任意の座標原点(NS0, EW0)は、X=20895.000、Y=-55446.000で、この座標原点からの距離に方位記号を冠し、N3、N6…、E3、E6…と座標値を呼称した。またこれに沿った1×1mグリッドを設定しており、座標原点からの最小数値をもってグリッド名を呼称した。当遺跡では今までに発掘調査を行っているので、遺構番号は第IV次調査の続き番号を付していった。写真撮影はカラーリバーサルフィルムと白黒ネガフィルムを使用し、35mmカメラで撮影した。なお出土した遺物への注記は、村遺跡地図に付されている三夜塚遺跡の番号「28」→第V次調査の「V」→遺構番号・グリッド名→取り上げNo.の順番で手書きにより記した。

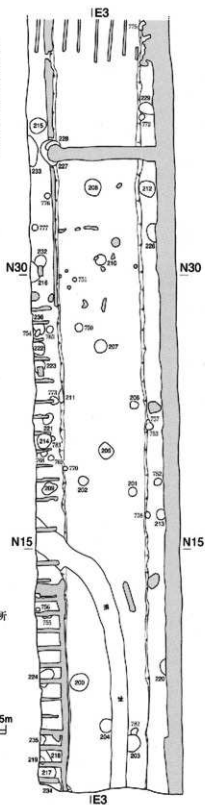
2. 検出された遺構と出土した遺物

今回の調査で遺構から出土した土器は前期末~中期初頭のものが多いが、量は少なく小破片ばかりである。また石器も少ない。いずれも特記するまでもないと思われ、各々記述するスペースもないので、遺物実測図(第6図、第7図)と観察表(第4表、第5表)を提示するに留める。遺構は土坑とピットが検出され、加えて近代の溝址も検出されている。

調査区北半部



調査区南半部



ゴシック体: SK
明朝体: SP

網掛範囲は捜査箇所

0 5m

第3図 道構配置図

(1) 土坑

土坑は38基検出された。直径50cm以上の穴を土坑として扱ったがピットとの境界は明瞭でなく、厳密なものではない。調査区の南半部で多く検出され、北半部にはあまり存在しない。遺物を出土した遺構は少なく、また顕著な遺物も出土しなかったが、時期の判明する土器片は縄文前期末～中期初頭のものに限られ、多くの土坑はこの期に帰属すると思われる。すべてについて記述しないが、ほとんどの土坑の平面図と断面図を図示し、また第2表にデータを掲示した。

形態的に特徴的なものとしては、平面系が円形を呈し、内部が袋状に掘り込まれるもので、SK-200・203・207・208・220・228等があげられる。深さは検出面からの数値であるが30～50cmのものが多く、SK-228は150cmもある。これらは屋外貯蔵穴と言われているものである。また上部がかなり削平されているであろうことを考えれば、SK-204・205・215等もこれらに加えることができるとと思われる。

SK-226からは、顕著な使用痕が認められないハンドボールを潰した程度の大きさの砂岩礫と磨石が、底面近くから出土している。SK-231からは漬物石の様な扁平な花崗岩礫(約10kg)が、底面から浮いて出土した。大きめな礫が出土しているものの共通性はなく、とりわけ特徴を見出すことはできない。

(2) ピット

ピットは34基検出された。こちらも調査区の南半部に多く、北半部に少ない。SP-764から縄文中期末の土器片が出土している以外、時期の判明する土器は見られず、帰属時期は決め難い。浅いものは近代の耕作に伴うものの可能性があるが、覆土の状況(ローム層土の混合具合や土の締まり具合)を見てピットとして扱った。柱穴の様に規則的に並ぶものはなく、また特徴的なものもない。それぞれについて記述してもあまり意味はないと思われるので、第3表にデータを掲示するに留めた。

(3) 溝址

調査区の南側にて検出した。削平されていないところで幅1.5m、深さ40cmを測る。覆土中から瓦片や銅銭(寛永通宝)が出土したため、近世以降の用水路ではないかと思われたが、溝底に砂礫の堆積がなく、水が流れた状況を示さないことから、当初用途は判断できないでいた。

しかし隣接地に畑を持つ村上登志水氏より、明治17年に開田計画が進められていたとの御教示を頂いた。この計画は、隣の波田町に設けられた波多堰の末流を引き込み、総延長約2.2kmの堰を新設して竹田地区の25町歩を開田するものであった。計画を進めた代表者は、波田町側の同意は取り付けていたが、水代の支払いで地元住民の合意を得ることができず、結局実現に至らなかった。しかし村上氏の調査によると、堰は部分的に掘削が開始されていたとのことで、今回見つかった溝址は、この堰の路線及び堰が掘削された区間に合致する。溝底に砂礫の堆積がなかったのは通水しなかったことを裏付ける。近代の遺構ではあるが、水不足に悩まされ努力した先人の労を偲ぶ発見であった。

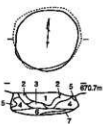
3. 自然化学分析

ここでは調査で出土した有機質遺物について行った科学分析結果を扱う。炭化材の樹種同定と年代測定である。分析はバリノ・サーヴェイ株式会社に委託して行った。以下分析結果を記載するが、紙幅の都合上、同社より提出された報告書の要点を当方に抜粋及び編集して掲載する。

(1) 炭化材樹種同定

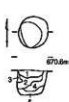
試料は、貯蔵穴と考えられる土坑4基から出土した炭化材14点(試料No.1～14)である。試料を自然乾燥

SK-200



- 1: 10YR3/2 黒腐 締まり部、粘液中の中層 1~2mmローム殻・炭化材 (最大15mm) 少量、3~5mmロームブロック1%含む
- 2: 10YR2/2 黒腐 締まり中層、粘性弱 1mmローム殻少量含む
- 3: 10YR3/2 黒腐 締まり部、粘性中層 1~2mmローム殻中層、5~20mmロームブロック5%含む
- 4: 10YR2/2 黒腐 締まり部、粘液中の中層 1~2mmローム殻少量、3~5mmロームブロック1%含む
- 5: 10YR4/4 腐 ブロック状ローム層土
- 6: 10YR2/2 黒腐 締まり部、粘液中の中層、粘質腐植土、粘中量含む
- 7: 10YR3/2 黒腐 締まり部、粘液中の中層 1mmローム殻少量含む

SK-201



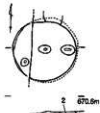
- 1: 10YR3/2 黒腐 締まり部、粘性中層 1mmローム殻少量含む
- 2: 10YR2/2 黒腐 締まり部、粘液中の中層 1mmローム殻少量、3~5mmロームブロック2%含む
- 3: 10YR4/4 に近い黄腐 ブロック状のローム層土
- 4: 10YR3/2 黒腐 締まり部、粘液中の中層 1~2mmローム殻少量含む
- 5: 10YR2/2 黒腐 締まり部、粘性中の中層 1mmローム殻少量含む

SK-202



- 1: 10YR3/2 黒腐 締まり部、粘性中層 1mmローム殻・炭灰少量含む
- 2: 10YR4/4 腐 ローム層土のブロック
- 3: 10YR3/2 黒腐 締まり部、粘性中層 1mmローム殻・炭灰少量含む
- 4: 10YR3/2 黒腐 締まり部、粘性中層 1~2mmローム殻中層、5~20mmロームブロック7%含む
- 5: 10YR2/2 黒腐 締まり部、粘性中層 1mmローム殻少量含む

SK-203



- 1: 10YR2/2 黒腐 締まり部、粘性中層 右 1~2mmローム殻少量、炭化材 (最大15mm) 少量、3~5mmロームブロック2%含む
- 2: 10YR3/2 黒腐 締まり部、粘液中の中層 1mmローム殻少量含む
- 3: 10YR2/2 黒腐 締まり部、粘性中層 右 1~2mmローム殻少量、3~5mmロームブロック1%含む
- 4: 10YR3/2 黒腐 締まり部、粘性中層 1mmローム殻少量含む

SK-204



- 1: 10YR3/2 黒腐 締まり部、粘性中層 1mmローム殻・炭灰少量含む
- 2: 10YR3/2 黒腐 締まり部、粘液中の中層 1~2mmローム殻少量含む

SK-205



- 1: 10YR4/2 灰黄腐 締まり部、粘性弱 1~2mmローム殻・炭灰少量含む
- 2: 10YR3/2 黒腐 締まり部、粘性中層 1mmローム殻少量含む

SK-206



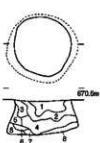
- 1: 10YR3/2 黒腐 締まり部、粘液中の中層 1~2mmローム殻少量含む
- 2: 10YR2/2 黒腐 締まり部、粘液中の中層 1~2mmローム殻少量、3~10mmロームブロック2%含む
- 3: 10YR4/2 に近い黄腐 締まり部、粘性中層 1~2mmローム殻少量含む
- 4: 10YR2/2 黒腐 締まり部、粘液中の中層 1mmローム殻少量含む
- 5: 10YR3/2 黒腐 締まり部、粘液中の中層 1~2mmローム殻少量含む

SK-207



- 1: 10YR2/2 黒腐 締まり部、粘性中層 右 1~2mmローム殻少量、炭化材 (最大20mm) 少量、3~5mmロームブロック2%含む
- 2: 10YR2/2 黒腐 締まり部、粘性中層 右 1~2mmローム殻少量含む
- 3: 10YR2/2 黒腐 締まり部、粘性中層 右 1~2mmローム殻少量、炭化材 (最大20mm) 少量、3~10mmロームブロック2%含む

SK-208



- 1: 10YR2/2 黒腐 締まり部、粘性中層 右 1~2mmローム殻少量、炭灰少量含む
- 2: 10YR2/2 黒腐 締まり部、粘性中層 右 1~2mmローム殻少量、3~5mmロームブロック2%含む
- 3: 10YR3/2 黒腐 締まり部、粘液中の中層 1~2mmローム殻少量含む
- 4: 10YR2/2 黒腐 締まり部、粘性中層 右 1~2mmローム殻少量含む
- 5: 10YR4/2 に近い黄腐 締まり部、粘性中層 1~2mmローム殻少量含む
- 6: 10YR4/4 腐 ブロック状のローム層土
- 7: 10YR3/2 黒腐 締まり部、粘性中層 右 1~2mmローム殻少量、3~10mmロームブロック2%含む
- 8: 10YR4/2 に近い黄腐 締まり部、粘性中層 右 1mm層土の炭灰混入土

SK-209



- 1: 10YR2/2 黒腐 締まり部、粘液中の中層 1mmローム殻・炭灰少量含む
- 2: 10YR4/2 灰黄腐 締まり部、粘性中層 右 1~2mmローム殻少量含む

SK-210



- 1: 10YR2/2 黒腐 締まり部、粘性中層 1mmローム殻少量含む
- 2: 10YR4/2 に近い黄腐 締まり部、粘性中層 右 1~2mmローム殻少量含む
- 3: 10YR3/2 に近い黄腐 締まり部、粘性中層 1mmローム殻中層、炭灰少量含む
- 4: 10YR4/2 に近い黄腐 締まり部、粘性中層 1mmローム殻少量含む
- 5: 10YR4/2 灰黄腐 締まり部、粘性中層 右 1~2mmローム殻少量含む

SK-211



- 1: 10YR3/2 黒腐 締まり部、粘液中の中層 1~2mmローム殻・炭灰少量含む
- 2: 10YR3/2 黒腐 締まり部、粘液中の中層 1~2mmローム殻少量含む

SK-214



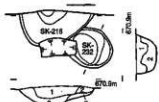
- 1: 10YR3/2 黒腐 締まり部、粘性中層 1~2mmローム殻少量含む
- 2: 10YR3/2 黒腐 締まり部、粘性中層 1~2mmローム殻少量、15mm径の小石少量含む
- 3: 10YR3/2 黒腐 締まり部、粘性中層 粘液中の中層、粘質腐植土、粘中量含む

SK-215



- 1: 10YR3/2 黒腐 締まり部、粘液中の中層 1mmローム殻少量、3~10mmロームブロック1%含む
- 2: 10YR3/2 黒腐 締まり部、粘液中の中層 1mmローム殻少量含む

SK-216 ~ 232



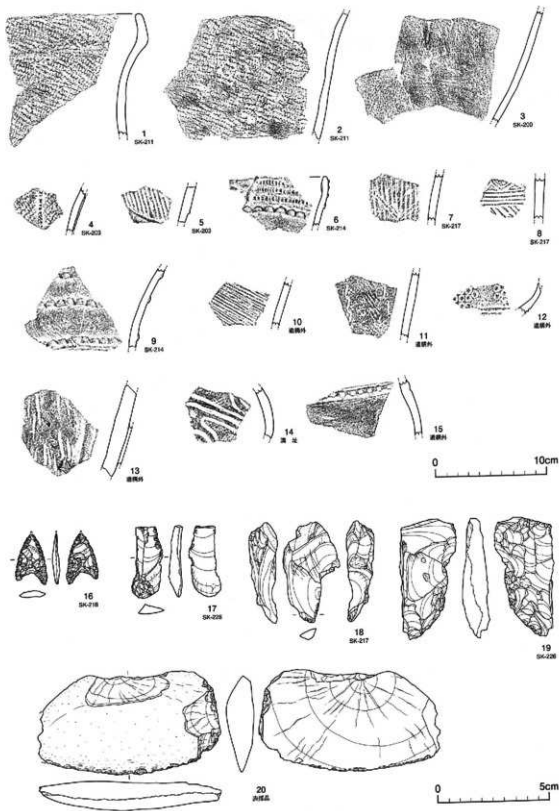
[SK-216]

- 1: 10YR2/2 黒腐 締まり部、粘性中層 1~2mmローム殻・炭化材 (最大15mm) 少量含む
- 2: 10YR2/2 黒腐 締まり部、粘性中層 右 1~2mmローム殻・炭灰少量、3~10mmロームブロック1%含む
- 3: 10YR3/2 黒腐 締まり部、粘性中層 粘液中の中層 1~2mmローム殻少量、5~20mmロームブロック1%含む

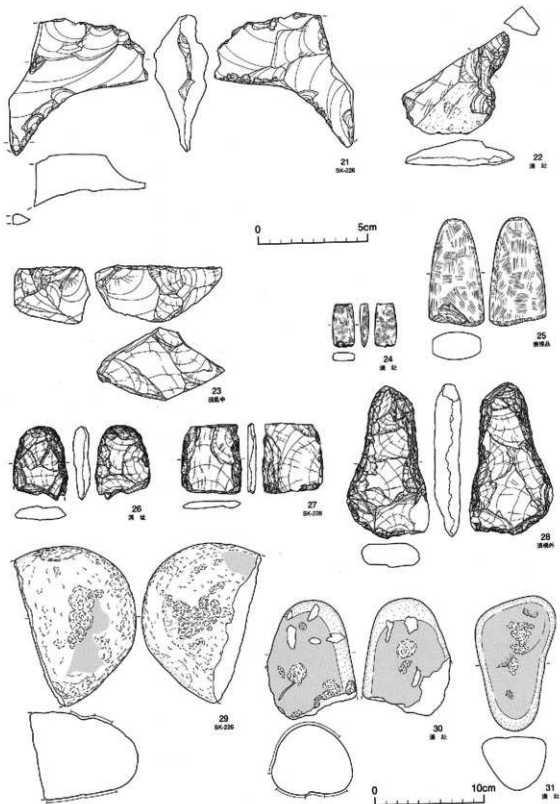
[SK-217]

- 1: 10YR3/2 黒腐 締まり部、粘性中層 1mmローム殻・炭化材 (最大15mm) 少量、3~5mmロームブロック1%含む
- 2: 10YR4/4 腐 締まり部、粘性中層 炭化材 (最大20mm) 少量、3mmロームブロック1%含む

第4図 遺構図 (1)



第6図 出土遺物(1)



第7图 出土遺物(2)

させた後、木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の胡断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類を同定する。結果を第1表に示す。土坑4基から出土した炭化材からは、広葉樹のクリ、エノキ属、カツラが認められた。このうち、エノキ属は、自然堤防上等に生育する落葉高木であり、木材はやや重硬な部類に入る。カツラは、河畔林等の適湿地に生育する落葉高木であり、木理が直線で割裂性が高く、加工は容易である。クリは、二次林等に生育する落葉高木であり、木材は重硬で強度・耐朽性が高いという材質を有する。これらの樹木は、いずれも現在の本地域に見られる種類であり、周辺の河畔等の沖積地から山地にかけて生育していたと考えられる。各土坑で認められた分類群をみると、SK-200はエノキ属とカツラの2種類からなる一方、SK-207・208・232はクリのみであった。とくに、SK-207・232は複数の炭化材を調査対象とした結果であることを考慮すると、クリ単独の組成であった可能性がある。

(2) 炭化材年代測定

試料は、貯蔵穴と推定される2基の土坑（SK-200・208）覆土から出土した炭化材2点である。なお、これらの炭化材は、樹種同定の結果、SK-200炭化材（試料№4）はカツラ（*Cercidiphyllum japonicum* Sieb. et Zucc.）、SK-208炭化材（試料№10）はクリ（*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.）であることが確認されている。測定結果（補正年代）は、SK-200炭化材は 4610 ± 40 yrBP、SK-208炭化材は 2980 ± 40 yrBPを示す。また、これらの補正年代に基づく暦年較正結果（ σ ）は、それぞれ、calBP5,447-calBP5,301、calBP3,240-calBP3,080である。これらの暦年代は、谷口康浩（2001、縄文時代の年代、季刊考古学、77、17-21）や、小林謙一（2008、縄文土器の年代（東日本）、小林達雄編 小林達雄先生古希記念企画 総覧 縄文土器、株式会社アム・プロモーション、896-903）等を参考とすると、SK-200は縄文時代中期の初め頃、SK-208は縄文時代後期の終わりから晩期の初め頃と推定される。SK-200については発掘調査所見で示された年代の範囲内にあるが、SK-208で示された年代は発掘調査所見よりも新しい。炭化材が出土した土坑は、貯蔵穴の可能性が指摘されており、いわゆる燃料材等の利用等は考え難いことから、炭化材の出土状況や履歴等を含めた検討が必要である。

第1表 樹種同定結果

試料№	遺跡名	層位	時代	科名	属名
1	SK-200	フナ土	縄文時代前期末	楡片	エノキ属
2				楡片	エノキ属
3				楡片	エノキ属
4				楡片	カツラ
5				楡片	カツラ
6	SK-207	1層	縄文時代前期末	楡片	クリ
7				楡片	クリ
8				楡片	クリ
9				楡片	クリ
10	SK-208	フナ土	縄文時代前期末	楡片	クリ
11	SK-232	1層	縄文時代前期末	楡片	クリ
12				楡片	クリ
13				楡片	クリ
14				楡片	クリ

IV まとめ

今回の発掘調査区には様々な擾乱が予想以上に及んでいたが、土坑・ピットをあわせて72基検出することができた。これら遺構の検証と、遺跡をめぐる課題を記しまとめたい。

当遺跡は東西800m、南北400m程の範囲が遺跡として線引きされているが、一様に同時期の遺物が同密度に捨える状況にない。今回見つかった前期末～中期初頭の遺構・遺物は、本調査区を含めた西側及び南側の範囲からのみ見つかり、集落はまずこの付近に設けられたと見られる。今回検出された土坑は、貯蔵穴と言われる断面が袋状を呈するものが多く、隣接する第IV次調査第1・13トレンチでも同様な状況であったことから、この周辺は貯蔵穴群といった様相を呈する。集落構造を追えるだけの事例は蓄積されていない

第2表 土坑一覧表

測線No	坑 アソット	坑 深 (cm)			平面形状	断面形状	切り合い関係	品 土 産 物
		底位	坑位	埋立				
SK-200	N2722	102	86	36	円形	袋状		土器片4点 (時期不明 不明陶器1、砂岩磁土点 82g)
SK-201	N1805	50	48	38	円形	円筒状		
SK-202	N1802	55	39	20	円形	筒状		
SK-203	N475	102	94	27	円形	袋状	>SK-202	土器片10点 (前期末 期604・9集)
SK-204	N2721	75	74	8	円形	溝状	>溝状	
SK-205	N2623	82	72	6	不整形	溝状		
SK-206	N2265	45	42	38	不整形	円筒状		
SK-207	N2623	72	70	24	円形	筒状		土器片1点 (時期不明)
SK-208	N3482	90	89	56	円形	袋状		土器片4点 (前期末→中期前期), 砂岩片1点 (51.2g)
SK-209	N1800	85	69	18	不整形	不整形		
SK-210	N3022	61	59	44	円形	円筒状		土器片4点 (前期末→中期前期)
SK-211	N2301			16	不整形			土器片10点 (前期末・中期前期) 砂岩片1点 (不明陶器・2種) 瓦土器片すべて同一関係か?1)、短冊化した形状の板石1点 (150g)
SK-212	N3306	93	89	45	不整形	袋状		
SK-213	N1426	55	26	10	円形	溝状		
SK-214	N3000	83	80	14	円形	溝状	<SK-213	
SK-215	N3000	94	84	11	不整形	溝状		土器片10点 (前期末 期606・9集)
SK-216	N3090		116	29	不整形	<SK-212		土器片10点 (前期末)
SK-217	N280			36		袋状	<SK-218	
SK-218	N280			54		袋状	>SK-217, <SK-219	土器片4点 (前期末), 石製点 (不明陶器1、板石1点 (不明陶器), 瓦板石1点 (0.8g), 砂岩片1点 (68g), 177.1g) 集
SK-219	N300		45	38	円形	筒状	>SK-218	土器片2点 (前期末), 石製点 (不明陶器1、板石1点 (2.2g))
SK-220	N806		99	46	円筒状			土器片1点 (時期不明)
SK-221	N2220	68	55	24	楕円形	溝状		土器片1点 (時期不明)
SK-222	N2500	70		43	不整形	円筒状		土器片2点 (前期末)
SK-223	N2409	70	67	17	円形	溝状		
SK-224	N780	107	79	38	不整形	二次状		
SK-225	N3025	145		37		クワイ状		
SK-226	N2226	103		38		不整形		土器片1点 (前期末), 板石製板石瓦片1点 (50g127)、石製板石片1点 (不明陶器1)、石製点 (不明陶器1)、磨石製点 (不明陶器25)、砂岩片1点 (177.2g, 68.8g, 6.3g), 砂岩片1点 (130g) 集
SK-227	N3000	142		38		不整形	>SK-228	
SK-228	N2720	86	68	133	楕円形	溝状	<SK-227	土器片7点 (前期末), 板石製石片1 (不明陶器22)、板石瓦片1点 (7.8g)
SK-229	N3025	91	62	39	楕円形	不整形		
SK-230	N81W1	178		76	不整形	二次状		
SK-231	N2720	62	47	16	楕円形	クワイ状		
SK-232	N3000	66	63	36	不整形	筒状	>SK-216	板石製点1点 (約10g)
SK-233	N3000	170		26	楕円形	不整形		土器片1点 (前期末)
SK-234	N261		75	25		溝状		砂岩片1点 (49g)
SK-235	N400			39		円筒状		土器片2点 (前期末→中期前期)
SK-236	N2720		60	9		溝状	>SK-234	
SK-237	N2400		59	8		二次状		土器片1点 (時期不明)

切り合い関係 < : 切る、> : 切られる、* : 不明

第3表 ビット一覧表

測線No	坑 アソット	坑 深 (cm)			切り合い関係	品 土 産 物
		底位	坑位	埋立		
SP-790	N2722	43	43	9		
SP-791	N2922	23	23	15		
SP-792	N1635	44	37	6		
SP-793	N2129	39	26	17	*SP-797	
SP-794	N2020	43	23	19	<SK-216	
SP-795	N1100	50		9		
SP-796	N1100	35	22	7		
SP-797	N2105	21	11		*SP-793	
SP-798	N1635	34	27	9		
SP-799	N2022		24	14		
SP-790	N81E1	40	31	17		
SP-791	N8023	25	25	7		
SP-792	N2724		28	15		
SP-793	N2720	40	38	13		
SP-794	N2600	58		12	*SP-774	土器片1点 (時期不明)
SP-795	N1600	37	29	40		土器片2点 (前期末)
SP-796	N2900	38	33	34		
SP-797	N82W1		37	11		
SP-798	N2000	39	36	38		
SP-799	N1900	31	31	15		
SP-776	N1901	27	23	28		
SP-771	N3000	51		14		
SP-772	N3025	25	30	17		
SP-773	N2300	52	43	18		
SP-774	N3000	56		19	*SP-764	土器片5点 (時期不明), シャレード瓦片1点 (40g)
SP-775	N4005	52	52	27		
SP-776	N3000	33	31	23		
SP-777	N3200	35	33	26		
SP-778	N9782			21		
SP-779	N6300			9		
SP-780	N6500			14		土器片1点 (時期不明)
SP-781	N2625	27	26	13		
SP-782	N3025		32	17	>SK-201	
SP-783	N2100	26		3	>SK-214	

切り合い関係 < : 切る、> : 切られる、* : 不明

第4表 図化土器観察表

器文 図%	土 器 名	発祥地	調査及び文様	外面装身/土/焼成		備 考
1	SK217フナ土	口縁部一帯に土手	外: 単純区縄文 内: ココ方向へのナデ	7.5YR6/4	にない/焼/良好	3rd - 3rd 同 - 100% 外?
2	SK217フナ土	胴部上半	外: 単純区縄文 内: ココ方向へのナデ	7.5YR6/4	にない/焼/良好	
3	SK207フナ土	胴部	外: 縄文 軟状土系によるヨコ方向へのナデ 内: ココ方向へのナデ	7.5YR6/5	焼/今や良好	
4	SK207フナ土	胴部	外: 単純区縄文系に垂下する形跡が確認 内: ココ方向へのナデ	2.5Y3/1	黒/今や焼/今や良好	外面装身なし
5	SK207フナ土	胴部	外: 管内区に約半量混合状焼成で変色 支那産白磁は認め られずとも 内: ココ方向へのナデ	7.5YR5/3	にない/焼/今や焼/今や 良好	
6	SK217フナ土	口縁部	外: 表面に若干の突起で口縁部を飾り、形跡が確認 されぬ場合もある 内: ココ方向へのナデ	7.5YR6/4	にない/焼/今や焼/良好	3rd - 3rd 同 - 100% 外?
7	SK217フナ土	胴部	外: 表面に混合状焼成と半軟質によるV字状区縄文 内: ココ方向へのナデ	10YR5/3	にない/古焼/今や焼/良好	
8	SK217フナ土	胴部	外: 半軟質層による硬質土支那産白磁 内: ココ方向へのナデ	7.5YR5/4	にない/焼/今や良好	
9	SK217フナ土	胴部上半	外: 表面に若干の突起を認められずとも 内: ココ方向へのナデ	7.5YR5/3	にない/焼/今や焼/良好	
10	遺物外 (表土除去中出土)	胴部	外: 斜行混合状焼成 内: ココ方向へのナデ	7.5YR5/3	にない/焼/今や焼/良好	
11	遺物外 (表土除去中出土)	胴部下半	外: 単純区縄文 内: ココ方向へのナデ	7.5YR6/1	にない/焼/今や焼/良好	
12	遺物外 (表土除去中出土)	胴部	外: 円形刺突文 (竹筒状工具) を透して施文 深型に硬質 区縄文 素材とのほがれあり 内: ココ方向へのナデ	7.5YR5/3	にない/焼/今や焼/良好	
13	遺物外 (遺棄成泥作製時出土)	胴部下半	外: 若干の突起 (くずれた硬質土の区縄文) 内: ココ方向へのナデ	10YR6/4	にない/焼/今や焼/今や 良好	
14	遺物外 (表土除去中出土)	胴部上半	外: 単純区縄文に比較して円形刺突文 (竹筒状工具) 内: ココ方向へのナデ	7.5YR6/4	にない/焼/今や焼/良好	
15	遺物外 (遺棄成泥作製時出土)	胴部上半	外: 比較的近くに施する円形刺突文 (竹筒状工具) 内: 表面はヨコ方向へのナデを それ以下はヨコ方向へのナ デ	10YR5/3	にない/古焼/今や焼/良好	

第5表 図化石器観察表

器文 図%	土 器 名	器 種	石 材	欠損状況	量 (cm ²)				製造方法等%	備 考
					長さ	幅	厚さ	重さ		
16	SK207フナ土	石鏃	黒曜石	先端部が欠	(2.5)	1.3	0.3	0.7	2	
17	SK207フナ土	鹿角刺突有彫目	黒曜石		2.3	1.4	0.7	2.1	5	
18	SK217フナ土	石鏃	黒曜石	完整	4.6	2.6	1.2	1.0	1	
19	SK225フナ土	石鏃完成品?	黒曜石		5.5	2.6	1.2	1.3	4	
20	遺物外	磨りすり石?	砂岩	完整	4.7	6.3	1.3	6.3	20	
21	SK225フナ土	石鏃?	黒曜石		6.3	6.2	2.5	4.0	6	
22	遺物外 (表土除去中出土)	石鏃?	珪質砂岩	(4.7)	(5.6)	1.3	2.1	1.2		
23	遺物外 (表土除去中出土)	石鏃	チャート		2.6	5.8	3.4	9.5	14	
24	遺物外 (表土除去中出土)	小型磨製石鏃	砂岩	(1.7)欠部	2.9	1.9	0.8	0.9	9	
25	遺物外	磨製石鏃	砂岩	写込欠	(9.8)	5.6	2.5	24.1	21	敲打具として再利用
26	遺物外 (表土除去中出土)	打製石鏃	珪質	基部の欠	(6.7)	4.9	1.4	5.4	10	
27	SK225フナ土	打製石鏃	珪質	基部、刃部欠	(6.4)	5.5	0.7	4.0	7	
28	遺物外 (表土除去中出土)	打製石鏃	珪質	(1.7)欠部	13.9	7.5	2.4	27.8	15	
29	SK225フナ土	磨製石鏃	砂岩	1/2欠	14.6	(10.6)	8.5	143.4	3	
30	遺物外 (表土除去中出土)	磨製石鏃	砂岩	1/2欠	(10.8)	(7.2)	6.9	77.1	13	最熟
31	遺物外 (表土除去中出土)	磨製石鏃	砂岩	欠部	12.2	7.1	4.9	50.6	8	

注: 重量 (長さ・幅・厚さ) の括弧付数値は既存破

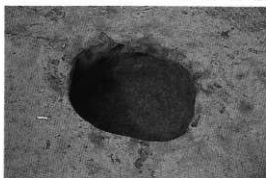
が、堅穴式住居址は本調査区から西へ50m程の位置、第IV次調査の第23トレンチで大型なものを1基検出している。今後調査を行えば、居住域はこちら個から見つかる可能性が考えられる。

また以後、数多くの遺構・遺物が見つかった中期中葉～後葉を迎えて集落は最大の広がりを見せたと推測されるが、この期も全域で土器が拾える状況になく、北東寄りの旧河川の窪みに沿った範囲に集中している。そして後期は遺跡の北西側に集中する傾向がうかがえる。乱流した唐沢川の流路は、今は平滑化して分からないが幾筋もあったと思われる、状況に応じて適地を選び集落域が移動した可能性が考えられる。そしてこう見ていくと、北隣の下原遺跡、南隣の堀ノ内遺跡、北竹原遺跡を含めての考察が必要で、三夜塚遺跡群とつながり方が適切かと思われるが、今後の課題として取り組んでいく必要があろう。

最後となりましたが、今回の発掘調査も沿線農家の皆様、炎暑に発掘作業に参加された皆様、その他関係各位の皆様のご理解とご協力のもと、調査報告書の刊行にまで至ることができました。ここに深く感謝の意を表し、松本平最大規模の縄文中期遺跡とも言われた三夜塚遺跡が、地域の文化財としてより一層大切にされていくことを切に希望し、本書の結びとします。



SK-200発掘 (南から)



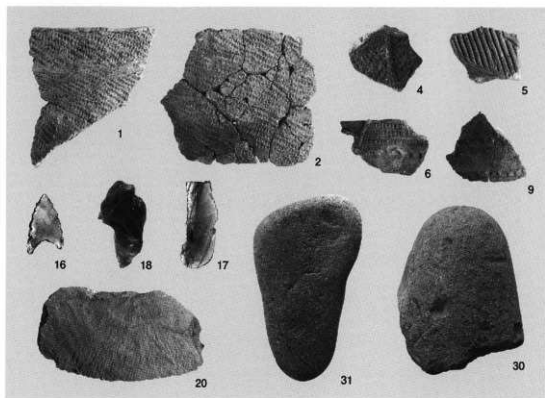
SK-208発掘 (南から)



SK-228発掘 (南から)



SK-231花崗岩出土状況 (南東から)



出土遺物

報告書抄録

ふりがな	さんやづかいせき 5							
書名	三夜塚遺跡 V							
副書名	地方特定道路整備工事（村道北6号線）に伴う記録保存							
巻次								
シリーズ名	山形村遺跡発掘調査報告書							
シリーズ番号	第18集							
編著者名	和田 和哉							
編集機関	山形村教育委員会							
所在地	〒390-1301 長野県東筑摩郡山形村2040-1 TEL 0263-98-3155 FAX 0263-98-4256							
発行年月日	2010年3月25日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
三夜塚	長野県東筑摩郡山形村6402-4他	204501	28	36° 11' 13"	137° 53' 01"	2008. 8. 25 ～ 2008. 9. 17	681.5㎡	地方特定道路整備工事（村道北6号線）に伴う緊急発掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
三夜塚	集落跡	縄文	土坑 ピット	38 34	縄文時代前期末～中期初頭の土器・石器		縄文時代前期末～中期初頭の遺構の他、明治17年の竹田圃田計画に伴う塚址を検出した。	

三 夜 塚 遺 跡 V

—地方特定道路整備工事（村道北6号線）に伴う記録保存—

平成22年3月25日 発行

編集・発行 山形村教育委員会
印刷 カシヨ株式会社
